

# 英米文学を利用した英語教材研究

## プロローグ

「『英語が使える日本人』構想」の発表以来、実践的コミュニケーションの手段としての英語に注目が集まっている。しかし、その内容は「実践的コミュニケーション」＝「英会話」といったニュアンスが非常に強くなっている。英語教員養成は教育職員免許法施行規則第四条別表によれば、「教科に関する科目」は「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の4区分から構成されている。この4区分を教員養成における教育課程の中でバランスよく配置しなければならない。ここでは英語教材研究の観点から、英米文学に注目していきたい。

## 1 教材研究

パソコンやインターネットによりいわゆる教具の発達は目覚ましいものがある。今や教具と教材のはっきりとした境界線はなくなり、ハードの中にソフトが自動的に組み入れられるなど、時代の進歩とともに、教材研究は多様化の一途たどっている。

教材研究とは、教科の本質・目標に照らし、これらの機能を最も効果的に果たす教材を発掘したり、開発する教材づくりを含む研究のことをいう。<sup>(1)</sup>

ここでは特に既成の教材ではなく、教材の開発を中心に扱うことになる。国語教育において、日本文学を用いない教科書がないのと同様に、「文学を用いない言語教育などはない」<sup>(2)</sup>というのが本筋であろう。従って、英語教育において、英米文学を用いることは当然であり、英語教員養成においては、「教科に関する科目」の4区分のひとつに「英米文学」が配置されているのである。

では、英語教材研究として文学教材はどんな利点があるのだろうか。中村愛人によれば、利点として次ぎの5項目をあげている。

- 1) 様々な style の authentic な言語材料を提供出来る。
- 2) 言語能力(literary competence)を発達させる。
- 3) 個人の成長や人間性を豊かにする。
- 4) 文化学習に効果的である。
- 5) 作品への興味から学習の動機づけになる。<sup>(3)</sup>

もちろん、教材の対象者により、レベルや内容も大きく変わって来る。

1) ~ 5) の中で最も厄介なのが「4) 文化学習に効果的である」という点だ。教授者は、教材から読み取れる「文化知識」「異文化理解」などは当然必要であるが、学習者へどこまで教えるのか、あるいは、どこまで理解を求めていくのかといった問題がある。例えば、『アンクル・トムの小屋』、『若草物語』を取り上げた場合、黒人差別の問題、南北戦争、自立した女性といったことについて、どこまで触れていくのかは、実は教授者側にも大きな負担となろう。また、他教科との関連も生じて来る。大学での授業であれば、これらの作品からアメリカ文化やアメリカの社会問題、人種問題等に触れ、そこから発展していくことはむしろ自然な流れである。授業科目が、所謂基礎科目(教養科目)の英語の場合には少し、問題はあるかもしれないが、専門科目の英語でしかも、英米文学科系統の学科であれば、時代背景の理解も或る程度必要となろう。しかし、中学・高等学校の英語の授業の場合には、そこまで求めるのは、英語の授業から逸脱していると言われてもやむを得ないかもしれない。もちろん、大学の英語教育でも、文学教材を使用している例は少なくなっている。大学側もテキストとして実用英語や実践的コミュニケーションで使用する英語の運用能力を高める教材を指定して来る事例が多い。田中慎也は「大学の英語教育改革は英文学教育を蘇生させる?」の中で、

確かに異文化理解教育や国際理解教育によって、各地域社会や文化への理解は深まるであろうが、言語的センスを高め磨くばかりでなく、人間に対する大きく深い理解力と、人間の心を深く読み取る洞察力とを養うものは文学であろう。

今やスキル教育に傾斜した英語教育を救う者は文学教育ではなか

ろうか。なぜなら文学教育によって真のコミュニケーション能力養成の教育が完結すると思われるからである。

科学的知見に裏付けられたスキル教育と、人間への豊かな洞察力を育む文学教育は、言語教育の両輪である。<sup>(4)</sup>

と述べている。大学の英語教育では、前述の「3）個人の成長や人間性を豊にする」「4）文化学習に効果的である」が重要なウェイトを占めることになる。

## 2 教材の選択

教材研究をするにあたり、最も時間を要するのが教材の選択であろう。これに何を目的とする教材なのかがはっきりしなければ、単に英語で書かれたものなら何でもよいということになってしまう。日本人の歌手のサクセス・ストーリーや外国で活躍する日本人のことなど、実際に英語の教科書にはこうした内容のものまで採用されている。文学作品の英語の最大の利点は、前述の「1）様々な style の authentic な言語材料を提供できる」ということである。おそらく、その端的な例が名言・名句として紹介される英語であろう。

All's well that ends well. 終わりよければすべてよし。

All that glitters is not gold. 輝くものすべてが金にあらざるなり。

上記の2つの英文はよく「関係代名詞 that」の解説や辞書の例文としてもよく使われるものである。前文の内容を受け、前文自体が先行詞の役割を果たす that の使い方、先行詞に all が含まれる時には whichではなく、that を使用する例文として、それぞれ紹介されている。この2つの英文はそれぞれウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) の作品から取られたものである。『終わりよければすべてよし』(*All's Well That Ends Well*) はまさに作品のタイトルそのもので、「輝くものすべてが金にあらざるなり」は『ヴェニスの商人』(*The Merchant of Venice*) からの台詞である。教授者及び学習者はこのことを知らなくて

も、英米文学の教材研究の成果を利用しているのである。文学不用論とまでは言わないまでも、昨今のオーラル・コミュニケーションの英語教育の流れがあろうと、ほとんどの辞典等は、文学作品、新聞、雑誌などからの過去の例文の蓄積から出来上がっていることは否定できないのである。前述の２つの例文が出てきた時に教授者が「この例文はシェイクスピアの『終わりよければすべてよし』と『ヴェニスの商人』という作品からとられたものですよ」とだけでも付け加えるかどうかは、実は repetition を考えるとあとから大きな効果を生む伏線となる。こういった意味では教授者の見識が問われて来るのである。教材の選択を考える時、作品そのものを教材とするのか、あるいは作品中に使用されている英文を教材として使用するのかによって教材の捉え方や研究の方法も当然異なって来る。特に、中学・高等学校の英語教材研究を中心とするとなると、「英文を教材として使用する」「ダイアログを教材として使用する」、すなわち「様々な style の authentic な言語材料を提供できる」ということになるのだ。

### 3 教材研究の目的と授業での導入

教材研究で最も重要なのが、「何の目的で、授業でどう導入していくか」といったことだろう。どんなによい教材でも導入の仕方を誤れば、効果は期待できない。次ぎに考えなくてはならないことは、「情報媒体」と「対象とする学年と教材の内容」であろう。

「情報媒体」としては、「１．文字」「２．音声」「３．映像（絵・写真を含めた）」の３つが考えられる。単独で用いる方法と組み合わせて用いる方法がある。「１．文字」は最も単純な方法で、いわゆるプリントによる補助教材で、英文を載せた教材であろう。しかし、最近のマルチメディアの目覚ましい発展により音読されたＣＤやカセットテープが付属（別売りを含む）をととしてついている場合が多い。テキストの内容によってはビデオもある。ほとんどの場合が、「１．文字」との併用が望ましいが、「実践的コミュニケーション」の「聞く」という運用能力では、この媒体はかなり有効であると言えよう。最近では、ＭＤを越え、さらに小型軽量化された、i-pod をはじめとするデジタル・オーディオプレーヤーの

登場により、学習者にはより選択肢が増え、使用者側の便利度は格段にアップした。さらに、「聞く」ということについては、学習者が「読む」あるいは「話す」模範ともなり、英語独特のリズムなどもこれらから学ぶこともできるようになった。また、最近特に多くなったのが、書籍にＣＤが附録として付き、音声を利用できる機会が多くなったことだ。英米文学の作品も洋書コーナーをのぞけば、ＣＤやカセットテープなどに録音されたものが多数出ているのがわかる。「３．映像（絵・写真を含めた）」には様々な可能性が広がっている。これにはパソコンを利用した新しい教材開発なども含まれる。また、テレビによる音声多重放送、映画、ＤＶＤなどの利用も大いに期待のできる場所である。特にＤＶＤは多言語を使用し、字幕、音声を選択できることから、教材としても様々な利用方法が可能であることはたのもしい限りだ。

「情報媒体」はパソコン、インターネットの利用により、その可能性は無限大に近く見える。教授者として最も検討を要するのが、「対象とする学年と教材の内容」であろう。英米文学作品の原文をそのまま利用することが望ましいことは言うまでもないが、easy English に rewrite されたものも中学生あたりの導入では望ましいかもしれない。また、英米文学をアニメ化しているディズニー映画を教材として利用したり、英米文学の映画化されたものを利用することも今の時代の流れでは、有効な方法である。ではどんな利用方法があるだろうか。これには、ＤＶＤが特に効力を発揮する。

ある場面を英語で読んでから、その場面を見る。例えば、一度目は英語音声＋英語字幕にて。二度目には英語音声＋日本語字幕にて。英語音声＋英語字幕の時に、映像と英語字幕にあわせて、dramatic reading させる。これにより、リズム等を身に付けさせる。英語運用能力以外では、動作、マナーなどや習慣などを知る。

現在では、スクリーンプレイがかなり出版されるようになり、英文シナリオと対訳形式のものも出版されていることから、こうしたものとＤＶＤを併用することもよいだろう。また、ダイログだけに注目して、そこ

を抜き出しておくことも一つの方法かもしれない。中学・高校の英語の授業では と が最も現実的である。 は英語運用能力から異文化理解などの範疇に入り、これを中心にするとはかなり高度になってしまう。高校上級あるいは大学での授業での活用ということになるかもしれない。

では具体的にどんな英米文学の作品がよいのだろうか。これには、幾つかの条件があろう。

学生（生徒）が作品の内容をよく理解しているもの。すでに読んだことがある、あるいは観たことがあるもの。

学生（生徒）が作品の内容はよくわからないが、タイトルは知っている、登場人物は知っているといったもの。

公開中の映画、あるいは公開まじかな映画。あるいはすでに公開された映画。

以上3点が学生（生徒）への関心度が高いものと思われる。学生（生徒）が全く知らない作品を使用することは、事前の動機付け等、かなりの準備が必要である。教員側の「恋愛ものならうけるのではないか」、「人生観がすばらしい」といったようなことではなく、英語教材としての可能性のほうをむしろ第1とすることがよいだろう。従って、名言などが含まれているといったものがやはり望ましい。フレーズとして使える英語表現などを紹介できることが現実的である。 は学生（生徒）には最もインパクトのある教材であることは言うまでもない。話題性があることと、興味・関心が学生（生徒）側にあるということが重要である。*Harry Potter* シリーズや *The Lord of the Rings* シリーズはいずれも英文学の作品であるが、前者は中学、後者は高校での授業で十分に活用できる英語レベルである。教員自身がまず、こうした作品に教材開発を意識して触れることが重要である。教員自身が意識しないで触れたら、教材としての存在観を感じないからである。教材開発を意識して、英語表現やそのレベルを確かめながら、かつ内容的なものを理解することで、はじめて学生（生徒）に教材として提示できるのではないだろうか。英語教員養成の立場から言えば、「教科に関する科目」の区分「英語コミュニケー

ション」「英米文学」「異文化理解」を特に活用することになり、英語の解説等においては、「英語学」の範疇の英語力を求められることになるのだ。

#### 4 教材研究の実践例

英語教材研究の実践例として筆者自身が行って来たものを一部紹介しておきたい。インターネット講座「日本人の知らないちょっといい英語」<sup>(5)</sup>では、英語で表現されたものから、名言・名句・フレーズを取り上げ、解説等を施した。英米文学の範囲を越えるものであるが、そこで取り上げた 50 の英文を紹介しておきたい。

シェイクスピアより

There is nothing either good or bad, thinking makes it so. (*Hamlet*)  
...the readiness is all. (*Hamlet*)

Fair is foul, and foul is fair. (*Macbeth*)

The web of our life is of a mingled yarn, good and ill together. (*All's Well That Ends Well*)

Love looks not with the eyes, but with the mind. And therefore is winged cupid painted blind. (*A Midsummer Night's Dream*)

The course of true love never did run smooth. (*A Midsummer Night's Dream*)

The evil that men do lives after them, the good is oft interred with their bones. (*Julius Caesar*)

There is a tide in the affairs of men. Which, taken at the flood, leads on to fortune; omitted, all the voyage of their life is bound in shallows and in miseries. (*Julius Caesar*)

Friendship is constant in all other things save in the office and affairs of love. (*Much Ado About Nothing*)

All that glisters is not gold. (*The Merchant of Venice*)

When devils will their blackest sins put on. They do suggest that first with heavenly shows. (*Othello*)

Love like a shadow flies when substance love pursues, pursuing that that flies, and flying what pursues. (*The Merry Wives of Windsor*)

ハリー・ポッター・シリーズより

It is our choices that show what we truly are, far more than our ability. (*Harry Potter and the Chamber of the Secrets*)

評論より

The problems of evil would be no problem at all, if good and bad were clearly labeled in black and white. The difficulties of choices are the source of tragedy. (*Christopher Marlowe: Overreacher*)

Disinterested intellectual curiosity is the life blood of real civilization. (*English Social History*)

culture is both a divisive and a unifying force. (*The Clash of Civilization*)

... the major differences in political and economic development among civilizations are clearly rooted in their cultures. (*The Clash of Civilization*)

“Speech is silver, silence is golden.” : or, as I might rather express it. “Speech is of time, Eternity.” (*Sartor Resartus*)

Culture hides much more than it reveals, and strangely enough what it hides, it hides most effectively from its own participants. (*The Silent Language*)

Difficulties in international communication are seldom seen for what they are. When it becomes apparent to people of different countries that they are not understanding one another, each tends to blame “those foreigners,” for their stupidity, deceit, or craziness... (*The Silent Language*)

A large part of the vocabulary of a culture is devoted to sets. By looking at the vocabulary you can get a rough idea of the content of a culture and the things that are valued. (*The Silent Language*)



The country is very small geographically, it is extremely poor in natural resources, and yet it has a huge population. The only resources it has of real value is the people who inhabit the islands. Thus the key to Japan's success must be the wisest possible of its precious human resources. (*Japan's Wasted Workers*)

No matter how great the obstacles, it is obvious that change must come....if Japan is to succeed in the future. The reason it must come is that the very foundations of Japan's past success have been largely undermined. It has little choice but to admit the new situation and to seek another path. (*Japan's Wasted Workers*)

How do we know that change is accelerating? There is, after all, no absolute way to measure change.... There is no static point, no nirvana-like un-change, against which to measure change. Change is therefore, necessarily relative. (*Future Shock*)

Society is differentiating. What is more, we shall never, no matter how refined our predictive tools become, be able to forecast the exact sequence of future states of the society)

聖書より

Love is patient; love is kind and envies no one. Love is never boastful, nor conceited, nor rude; never selfish, not quick to take offense. Love keeps no score of wrongs.... Love will never come to an end.... In a word, there are three that last for ever: faith, hope, and love: but the greatest of them all is love. (*1 Corinthians*)

Ask, and it will be given to you; seek, and you will find; knock, and it will be opened to you. For everyone who asks receives, and he who seeks finds, and to him who knocks it will be opened. (*The Gospel According to Matthew*)

ベストセラーより

Old beliefs do not lead you to new cheese. (*Who Moved My Cheese*)

The more important your cheese is to you, the more you want to hold onto it. (*Who Moved My Cheese*)

#### 映画より

As far as I'm concerned, the written word is mankind's greatest achievement. (*The Day After Tomorrow*)

You never put anything off, because now might be your last chance. (*The Day After Tomorrow*)

More than machinery, we need humanity. More than cleverness, we need kindness and gentleness. (*The Great Dictator*)

This thing ... man...whatever it is... evil may have created it, left its mark on it, but evil does not rule it. (*Van Helsing*)

It doesn't matter where they're going, what matters is deciding to get on. (*The Polar Express*)

We'll be better prepared to protect the Senator if we have some idea of what we're up against. (*Star Wars: Episod II Attack of the Clones*)

The dark is generous. Its gift is concealment: our true faces lie in the dark beneath our skins, our true hearts remain shadowed deeper still. But the greatest concealment lies not in protecting ours secret truths, but in hiding from us the truths of others.... Its second gift is comforting illusion:... Its third gift is the light itself. (*Star Wars: Revenge of the Sith*)

The shadow of greed, attachment is. What you fear to lose, train yourself to release. Let go of fear, and loss cannot harm you. (*Star Wars: Revenge of the Sith*)

#### 日本の作品より

To him who is diligent in virtue, wealth comes without his seeking it. (*Representative Men of Japan*)

Politeness will be a great acquisition, if it does no more than impart

grace to manners; but its function does not stop here... Its requirement is that we should weep with those that rejoice. (*Busido*)

In joy or sadness, flowers are our constant friends. We eat, drink, sing, dance, and flirt with them. We wed and christen with flowers. We dare not die without them. (*The Book of Tea*)

The schools will start teaching what good citizens must and not must do. They also teach what countries and what people are the enemy. (*What Happens Before War*)

We can choose our own future. We can also choose not to go to war. (*What Happens Before War*)

We desire to occupy an honored place in an international society striving for the preservation of peace, and the banishment of tyranny and slavery, oppression and intolerance for all time from the earth. (*The Constitution of Japan*)

We believe that no nation is responsible to itself alone, but that laws of political morality are and that obedience to such laws is incumbent upon all nations who would sustain their own justify their overreign. (*The Constitution of Japan*)

## その他

Since Wars began in the minds of men. It is in the minds from men that the defences of Peace must be constructed. (UNESCO Constitution)

The wide diffusion of culture, and the education of humanity for justice and liberty and peace a dispendable to the dignity of man and constitution a sacred duty with all the nations must fulfill in a spirit of mutual assistance and concern. (UNESCO Constitution)

...ask not what your country can do for you ask what you can do for your country. (John F. Kennedy's Address)

We hold these truths to be self evident, that all men are created

equal; that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights; that among these are life, liberty, and the pursuit of happiness. (Declaration of Independence)

Mankind must put an end to war, or will not put an end to mankind.  
(John F. Kennedy's Address)

Genius is one percent inspiration and ninety-nine percent perspiration. (Thomas Edison's words)

上記の英文は名言名句集から取ったものもあるが、筆者自身を読んだり、映画を鑑賞して、その後原文等の確認をして取り上げたものをまとめたものである。英米文学の範疇を越え、英語文化圏を中心としたものとなっている。「シェイクスピアより」のものは、16世紀から17世紀の英語であるが、台詞としては定評があり、短文ならば教材として十分利用できるものである。「ハリー・ポッター・シリーズより」のものは、『ハリー・ポッターと秘密の部屋』よりの一節で、映画化されたものである。映画の中でも大きな意味を持つ台詞として位置付けられている。

「It...that～」の強調構文、比較級の強調ではveryを使わずに、farを使うなど学校文法でもおなじみの文法事項があり、大いに活用できるものである。「評論より」は、英米人のものを中心にし、ハンチントン『文明の衝突』、トフラー『未来の衝撃』、ホール『沈黙の言葉』、ウォロノフ『幻の繁栄・ニッポン』等から取ったものである。「聖書より」は「コリント人への手紙第1」,「マタイの福音書」からのものである。前者はよく結婚式で引用される部分である。「ベストセラーより」のものはジョンソン『チーズはどこへ消えた?』から取ったものである。「映画より」のものは、『独裁者』(1940年公開)、『スター・ウォーズ エピソード2 クローンの攻撃』(2002年公開)、『ディ・アフター・トゥモロー』(2004年公開)、『ヴァン・ヘルシング』(2004年公開)、『ポーラ・エクスプレス』(2004年公開)、『スター・ウォーズ エピソード3 シスの復讐』(2005年公開)からのものだ。「日本の作品より」ものは、内村鑑三『代表的日本人』、新渡戸稲造『武士道』、岡倉天心『茶の本』、りぼん・ぷろじえくと『戦争のつくりかた』、日本国憲法から取ったものである。「そ

の他」のものは、ユネスコ憲章、アメリカ大統領演説、アメリカ独立宣言などから取ってものである。

英文の解説や英文法の解説では、どうしても例文が必要である。問題は、その例文が身近なものであればあるほど、興味や関心を引き起こすことができ、効果的であろう。授業の流れの中で導入していくことが肝心なことである。

## エピローグ

どんなに教材として活用できる英米文学の作品があろうが、パソコンを利用して教材開発ができるような環境が整っていたとしても、「教師の多忙化」は、教育現場では切実な問題である。

教師の多忙化は教育活動をゆがめ、その教育効果を低下させる。教師が多忙であれば、子どもとの触れ合いは少なくなり、授業の準備や教材研究も不十分となり、ゆきとどいた生活指導・学習指導が困難になる。<sup>(6)</sup>

中学校、高等学校にしてもこうした「教師の多忙化」は現実問題として、大きな問題である。こうした現実を踏まえて、英語教員養成の段階で、教材研究に関する授業では2つのことが必要になってくるのではないだろうか。1つは教材として既に出版されているものを利用する。2つ目は、自分自身が教材開発をするということである。理想はもちろん2つ目による教材がよい。しかし、現実問題として「教師の多忙化」は、必要以上に教師に負担を与えているのである。既に出版されている教材を利用することで、どのような教材作成をしたらよいか、どんな利用法があるかを教員側があらたに考えることとなる。今回の考察では「英米文学」にこだわったが、「4 教材研究の実践例」で示したように、英語圏での文学作品、映画作品などへ広げていけば教材は山のように存在する。あるいは、日本映画（特に、アニメ映画の分野）もDVDなどの利用により、英語字幕、英語音声などを組み合わせれば、活用方法はさらに広がっていくのである。こうした英語教材研究は教員の努力による

ものが大きいと言わざるを得ないのである。教員自身による教材開発には、英語教員としての広い知識と教養が必然的に必要となって来る。それには、「教科に関する科目」の 4 区分「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」をバランスよく学んでおく必要がある。その上で、英語表現を日常生活の中で意識していくことが重要ではないだろうか。教材開発をするために急に英文を意識することもあるが、普段から英文を意識しておけば、気になる英語表現が自然に教員の方へ入ってくるものだ。教員の弛まぬ努力こそが、教材研究には必要なのである。(武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部教授)

## 注

- (1) 柴田義松他編『教職基本用語辞典』(学文社、2004 年 4 月) p.12.
- (2) 斎藤兆史「文学を読まずして何が英語教育か」(『英語教育』第 53 巻第 4 号、大修館書店、2004 年 7 月) p.31.
- (3) 中村愛人「英語教育における文化教材としての文学作品の意義」(『広島大学大学院教育学研究科紀要』第 2 部第 52 号、2004 年 3 月) p.115.
- (4) 田中慎也「大学の英語教育改革は英文学教育を蘇生させる?」(『英語青年』第 150 巻第 9 号、研究社、2004 年 12 月) p.550.
- (5) 2004 年 4 月より web 公開の合資会社イーコンのインターネット講座「日本人の知らないちょっといい英語」(<http://www.ne.jp/asahi/econ/toshiodoi/>)を参照。なお、佐々木隆『英語講読』(イーコン、2005 年 12 月)には、web 公開した英文の一部を掲載して、出版している。
- (6) 三輪定宣「教師の多忙化」(土屋基規編『最新【学校教育】キーワード事典』旬報社、2001 年 12 月) p.163.

(平成 18 年 2 月 8 日記)